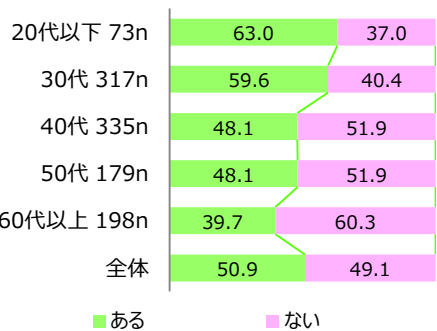


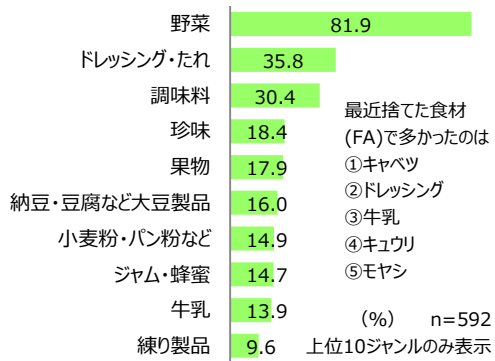
01 Woman's Trend

もったいない、次は捨てるたくないと思いつつ繰り返す、キッチンのフードロス
最も捨てる食材は野菜。鍵は“使い切る力”の育成にある

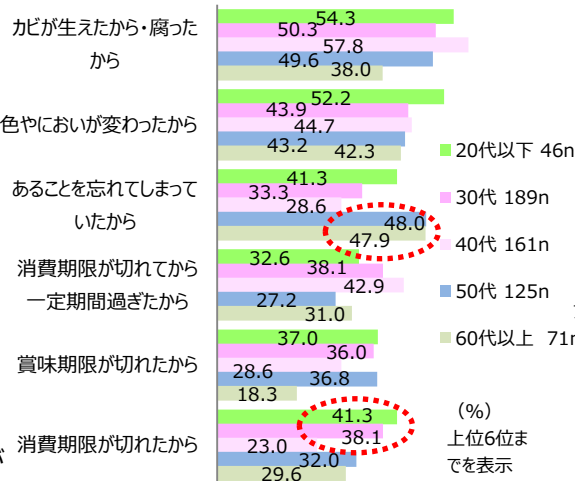
グラフ1 食品・食材を食べきれずに捨てることがあるか？ (%)



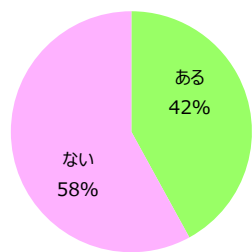
グラフ2 捨ててしまいがちな食品・食材 複数回答



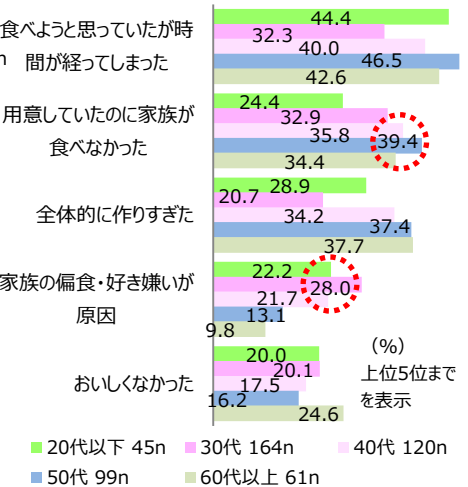
グラフ3 食品・食材を捨てた理由 複数回答



グラフ4 作った料理を残すなどして捨てることがあるか？



グラフ5 料理を捨てた理由 複数回答



商品の安全・安心は大前提だが、すぐに食べけるなら期限の近い方を手に取って、という提案もしていきたい。

食材を捨てた時に、6割以上の女性を感じるの「もったいないので次は捨てる工夫をしたい」ということ。その「捨てる工夫」のFAで多かったのは、「少量を買う」「早めに食べきる」「買い物前の冷蔵庫チェック」などだった。しかし、食材を捨てる人/捨てる人別に実践していることを聞くと（グラフ6）、差が大きかったのは、「捨てるかどうかを自分で判断」「消費期限をこまめにチェック」。

大切なのは、買う工夫よりも、食材をうまく保存し、状態を見ながら使い切る力の育成だ。料理の情報というレシビに目が行くが、捨てられることの多い野菜をどう扱うかといった啓発が、特に若い世代に向けて、望まれる。（所長・滑川恵理子）

食材が傷みやすい季節。食品の保存や調理に主婦たちは普段以上に気を配る。家族の健康管理はもちろんだが、せっかくの食材や料理を捨てたくない。しかし…。今月の調査テーマは「食品の廃棄」。既婚女性1164人の回答を分析した。

「食品・食材を食べきれずに捨ててしまうことがある」人は、全体の半数。年代が上がるほど、捨てる割合が下がり、20代・30代は約6割、40代・50代は約5割が捨てることのあるのに対し、60代以上になると4割まで減少する（グラフ1）。捨ててしまいがちな食品・食材ジャンル（複数回答）では、「野菜」が8割以上で圧倒的（グラフ2）。次に「ドレッシング・たれ」（36%）、「調味料」（30%）。20代は「野菜」を挙げた人が95%と特に多く、全体では9位の「牛乳」が2位（26%）に上がる。肉や魚は、傷みやすいという意識が強いせいか、捨てる人は1割未満だ。これらの食材を捨てた理由を聞いたところ、野菜が多いこともあり「カビが生えた・腐った」（51%）や「色やにおいが変わった」（44%）など、「もう食べられない」ところまで置いての判断が多い（グラフ3）。ただし20代・30代は、「消費期限が切れた」が、4割前後おり、50代になると食材が「あることを忘れていた」が増えて、60代では1位に。

2018.5.30～6.3 リビングWeb・シティリビングWeb・あんふぁんWebのWeb調査 集計数：1164人（既婚者のみ集計） 平均年齢：46.4歳 内訳：専業主婦46.6% フルタイム23.5% パート・アルバイト26.3%、その他3.5% 20代以下6.3% 30代27.2% 40代28.8% 50代22.3% 60代以上15.4% 同居する子ども：いる60.4% いない39.6% *本文の数字は小数点以下四捨五入

02 Working Woman's Real

【働く女性の地域活動事情】
忙しくて時間がないから…、加入者でも活動したことがない人が2割超

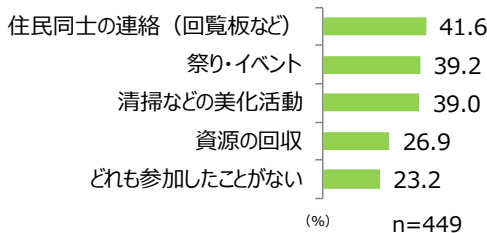
働く女性が増える中、働く女性の自治会・町内会への意識や参加実態を調査した。居住地域に自治会・町内会が「ある」率は79.5%。「ない」人は5.7%と少ないものの、「分からない」という人が14.8%いる。居住地域に自治会・町内会がある人のうち、71.8%が加入（全体の57.1%）。その理由は、「義務だと思う」37.9%、「周りの住民が加入している」31.6%と、ルールだからという意識が強いよう。活動意義に関する理由では、「地域のひととの交流」36.4%がポイントを集めた。

加入者が、参加したことがある活動の上位は「住民同士の連絡」「祭り・イベント」「清掃などの美化活動」だが、いずれも4割程度。「どれも参加したことがない」という人も23.2%いて、その理由は「忙しくて時間がない」44.2%がトップだ。

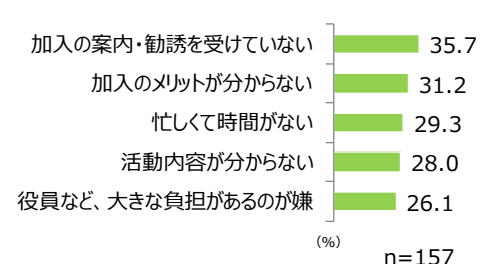
居住地域に自治会・町内会がある人のうち、未加入者は23.9%。その理由の上位は「加入の案内・勧誘を受けていない」「メリットや活動内容が分からない」といった情報不足。「忙しくて時間がない」「大きな負担があるのが嫌」という意見も比較的多い。

2018.5.16～5.20、全国の働く女性（20代～60代）を対象としたWeb調査 集計数：826 平均年齢：42.4歳

【自治会・町内会加入者が、成人してから参加したことがある活動】※複数回答、上位項目抜粋



【自治会・町内会の未加入者が、加入していない理由】※複数回答、上位項目抜粋

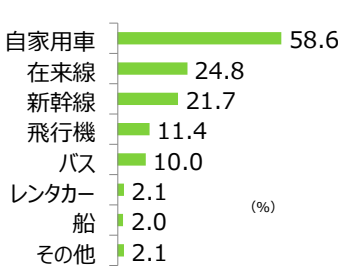


03 Seasonal Data

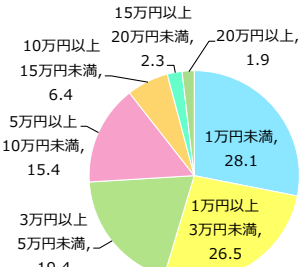
帰省に関するデータはくらしHOWサイト「暮らしの歳時記と消費」に掲載中！

移動手段は自家用車、帰省費用は1万円未満が最多
お盆帰省で「お小遣いもらった」が約3割

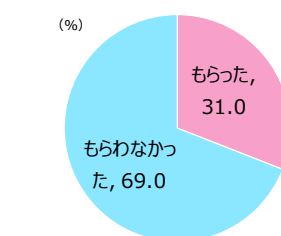
【お盆帰省の移動手段】



【昨年のお盆帰省にかかった費用】



【帰省に際して、親や親せきから「帰省費の足しに」などのお金をもらったか？】



今年6月の調査では、昨年のお盆に1泊以上の帰省をした女性は47.3%。帰省先は「自分の実家」が56.5%、「夫の実家」が22.3%、「両方」が21.3%だった。

帰省の際に使った主な移動手段は「自家用車」が58.6%と多く、「新幹線」は21.7%、「飛行機」は11.4%にとどまった。合計帰省期間は「2日間」29.4%、「3日間」26.2%とやや短めだ。

自家用車で帰省した人が多いためかお盆帰省全体にかかった費用も控えめで、「1万

円未満」が最も多く28.1%。次いで「1万円以上3万円未満」26.5%、「3万円以上5万円未満」19.4%が続く。とはいえ、親や親せきから「帰省の足しに」などお金をもらった人も約3割おり、もらった額は「1万円以上2万円未満」35.5%が最多。

帰省は気が重いという人も2割ほどいるものの、親や親せきに会える、食べ物おいしい、のんびりできる…などの理由から「楽しみ」な人が78.4%。お盆帰省自体は、多くの女性にとって嬉しいイベントのようだ。

調査方法／Webアンケート 調査対象／「リビングWeb」「シティリビングWeb」「あんふぁんWeb」ユーザー 調査期間／2018.06.13～06.17 有効回答数／女性1481人（平均年齢：43.71歳）